津島市タウンミーティング（愛知中小企業家同友会（海部・津島地区））会議録

日程　令和５年７月 10 日（月）
午後６時～７時 40 分
会場　津島商工会議所 第１会議室

１　事前質問（要旨）

（１）『津島市の今後のビジョン』

（３）『津島市の課題』

※重複する部分があるため、一括して市職員が回答した。

市職員

まちづくりを進めていくための最上位の計画として津島市でいえば、総合計画でまちづくりの指針を定めており、ここに目標とか色々な施策を定めている。計画期間としては、どこの自治体でも 10 年計画とし、ある程度一定期間を設けて進めていくことになっている。津島市の計画においては現在第５次になるが、令和３年度から 12 年度までの 10 年間の計画となっている。ここに掲げている将来都市像は「～未来につなぐ～住んでみたい 住んでよかったまち 津島」としている。本市は歴史・文化や自然環境に恵まれている自治体なので、そこにいかに住んでいただくか、訪れていただくか、働いていただくか、そういった市と関わる人々が住んでいる市民と一緒に誇りに思えるようなまちづくりを進めていく。そのような思いも込めて「～未来につなぐ～住んでみたい 住んでよかったまち 津島」という将来都市像を掲げている。会社の皆様だと、会社理念を社長室などに掲げたりしていることもあると思うが、市は職員証に「～未来につなぐ～住んでみたい 住んでよかったまち 津島」と記載し、常に職員自身が意識するようにしている。また、SDGｓの 17 の目標についても、セクションが自分たちの仕事が何に関わっていくのかを常に意識させるように職員証にも掲げ、職員への意識付けを行っている。

主要な課題として、市長も申し上げたとおり人口減少だが、令和２年の国勢調査においても全国 1,700 ほどの自治体の約８割は人口減少が起こっている。東京一極集中が問題になっているところ、国も「まち・ひと・しごと総合戦略」を掲げ、それの地方版として各市町村も総合戦略を作る流れとなっているので、本市においても総合計画の中に３つの戦略を掲げ、総合戦略も抱き合わせで策定をしている。人口減少の問題はあるが、本市の子育てサービスは日本トップクラスにおり、子育てしやすいまちということに違いはないが、まだまだ子育てしやすいまちというイメージが定着していないのが一つの課題ではないかと思う。全国どこの自治体においても高齢化も問題で、本市の高齢化率は約 30%となっており、高齢者単身世帯も増えてきている状況、また、本市に限ったことではないが、地球温暖化に伴う災害も頻繁に起こり、災害リスクが高まっている。海部圏域は海抜０メートル地帯で、どのように減災に繋げて

いくかも課題であると考えている。

このような状況の中で、総合計画では３つの重点戦略を掲げているが、１つは「安心して子供を産み育てられる環境をつくる」ということで、小中学校のトイレの様式化やエアコン設置、LED 化、体育館へのスポットエアコンの設置を熱中症対策として全小中学校へ整備した。市内には８小学校、４中学校と３つの県立高校があり、教育に力を入れているまちとして、特長のある教育を進めていく。人型ロボットやプログラミング教育、領事館との交流プロジェクトなど子育て世代を呼び込む戦略が必要と思っている。

２つめの戦略は「まちの活力を高めるため、人の流れをつくる」で、若者や女性の方がやりがいをもって働く場を整備するため、創業支援や企業誘致といったところにも力を入れている。先ほどの玄関構想にもあったが、新たなまちづくりを進めていく段階にある。

最後に３つめの戦略として「支えあい、安心して暮らせる地域をつくる」ため、防災減災対策を一元的に可視化できる防災システムの導入などを進めていることと、高齢者の方が日常的に生活できる移動支援とし、今年の１月からおでかけタクシー事業を 75 歳以上の高齢者の方などにタクシー料金の半額を助成し、実証実験の段階からスタートしている。

こういった３つの戦略に基づいて、人口減少を緩やかに戻していきたいのと、本市の魅力あるまちづくりを外向きにどう発信していくのかということに力を入れていくべきと考える。こういったことで、津島市の価値を高めることが今後最も力を入れていくべきところではないかと考えている。

（２）『中小企業に期待すること』

市職員

日本の企業は 99%以上が中小企業であり、雇用の 70%を占めているため、産業を支えている中小企業の発展は大変重要である。中小企業家同友会の皆様におかれましては、経営者同士の交流や自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、経営の安定を図る活動をされているかと思う。中小企業の特徴は、決定・実行がスピーディーであり、小回りの利く経営ができることと言われている。その特徴を生かし、時代に合わせた企業価値を創出し、中長期的に発展して頂くことは、市全体に経済活性化、雇用創出、定住促進、税収増による市内基盤や市民サービスの充実など、様々な波及効果が生まれてくるので、今後とも中小企業の発展に期待し、皆さんとともに津島市も成長していきたいと考えている。

２　意見交換（要旨）

テーマ「２大プロジェクト！『まちづくり再生と子育て支援』」

津島市で進めているまちづくり再生・子育て支援施策の紹介・進捗状況について市長

より説明を行った。

（１）広域連携について

意見

津島市はあま市と密接しているところがあり、名古屋から津島へ直線で来たらあま市を通る。サイクリングコースなどを自分はあま市へ提言しているが、あま市だけでやってもしょうがないので、名古屋市→あま市→津島市と歴史あるところまでサイクリングで一気に来れるようにすると、名古屋の方からも観光で一気に誘客できると思うが、そのようなことは考えないか。

市長

非常に面白いとは思う。どのように魅力的なものを作るかだと思う。いざどうやったらそのような魅力的なルートを安全に作りあげていくかとなると、制約等なかなか難しい部分もあり、市内だけで解決しなければならないこともあると思う。

意見

自分の市だけで完結することが多く、隣の市と何か連携してやったりすることは今のところ非常に少ないと思う。少しでもこの先の懸け橋になればいいなと思う。

市長

ゲートウェイプロジェクトでも、正面玄関は津島駅の構想だが、北の玄関は青塚駅で、あま市とも近い位置にある。ゲートウェイはかこつけているが、玄関構想という考えである。玄関にするのならきれいにする、という考えた方のもとである。

意見

近隣市町との広域連携も意識しての構想か。広域連携は不可欠であると思う。

市長

不可欠である。玄関はだいたい調整区域で建物を建てていけない地域になる。であるのに、玄関構想とすることで国や県へのメッセージとしている。調整区域だけどまちづくりをしていくという宣言になる。当然近隣のあま市、愛西市などと連携しなければ玄関構想は成り立たない。まちづくりのメッセージを発しないと誰も気づかない。マスタープランに位置付けてあることが国や県にもメッセージになる。まちづくりには夢が必要で、夢のために計画で位置づけをすることが必要。近隣とは合意形成など必要になるが、お互いにメリットがあることが必要になると思う。

（２）市民を巻き込んだ施策と中小企業の具体的な役割等について

意見

未来を見据えての施策で素晴らしいと感じる。行政主導になってしまい、市民を巻き込んでいるような施策がもしあれば教えてほしい。中小企業にできることを考えるが、我々にできるもっと具体的なことがあれば教えてほしい。

市長

いちい信金を企業版ふるさと納税でいただき、周辺の土地は市が買い取り、交流や観光の拠点にする。

市職員

天王通りは津島のシンボルだが、そこを分析すると空き家が多く、人口密度が下がっており、津島固有のアイデンティティが少なくなってくる。まちなかに皆さんが集まる公園等の空間がまちなかに少なく、段々まちの外に作っていってしまった。今回のいちい信用金庫の周辺の土地は小さく散見されるものを集約する。駅から津島神社までは約１km で遠いと感じると思うが、今回の場所は 700m くらいの場所で、歩くにはもってこいの場所になる。そこが話題性になるような形で、市民の個性を広めたいパフォーマーの方が必ずいると思うので、今回の拠点で関わることで、周辺の活力が上がる。令和６年度中に募集要項を定め、特に話題性がある拠点づくりに向けて、民間活用を活用し募集していきたいと思う。

市長

何ができるかというところだが、ここに参加していただきたいと思う。津島市も緩やかに行政主導から民間にという段階だが、ひつじサミット等の実証実験も行い、どのように盛り上げるかという取り組みをしている。それを経て、３月 31 日に愛知県で初めて津島市と名古屋鉄道と UR 都市機構とまちづくりの包括協定を結んだ。一昨年の 12 月に都市計画マスタープランを作るのに、名古屋鉄道と UR 都市機構の職員にも入っていただいた。今まででいくとまちづくりをする際、計画の策定をだいたいコンサルタントに投げかけるが、必ずそれは実現しない。ですが今回はそれを市の担当者が意識して、計画的に名古屋鉄道と UR 都市機構の担当者を引き込んで作っていった。

まちづくりには時間軸が必要で、早く結論を出すものではない。第一弾が天王川公園でこれから津島神社周辺や天王通りを見える化していくので、楽しみにして下さいと言っているが、見える化を急がないと何も進んでいないと思われてしまう。なので、担当には早くやれ、私の任期中にやってくれと言っている。そこまで見せないとまちづくりは分からない。広報も読まないなど無関心な人が多い。無関心に近い人が情報操作をすれば簡単である。今の時代は情報合戦になっている。

（３）名鉄津島駅の土地及びマンションの建設等について

意見

津島市に住んで 45 年になる。名鉄津島駅の顔となるものに着手する計画はないのか。また、ここ 15 年ほど新築マンションの建設もないが、名古屋エリアの転勤族の方の取り入れ等について、その辺りどう考えているか教えてほしい。

市長

名鉄津島駅の西側は全て名鉄が土地を所有している。津島駅東は買収の動きを進めている。

市職員

名鉄も株主会社なので資本投資計画があり、その中に位置づけられることが肝になる。2023 年度までの名鉄の資本投資計画には、尾西線・津島線のどの駅も予定駅になっていない。この部分はまずは津島市が頑張らなければならないので、まちづくり協定をもって動き出している。駅の西側が寂しいが、名鉄の土地になっていて、やってくださいと言っても、実際それが収益に繋がらないのが本音である。

マンションのことに関しては、平成 21 年度以降マンションの新築はない。駅にそれだけの投資をしていくために、まず人口密度を上げること、と市長からも命を受けている。そのためには容積率を上げて、適正な人口密度を維持しない限り、極端な話駅に 100 億円投資をしても無駄になってしまう。市としては歳入として得られるものがないと投資する価値はなかなかない。

市長

ここ何年かで土地の用途変更も進めてきて、受け皿は進んではいる。一般の方には分かりづらいところだが、着実に進んではいる。計画的にやってはいるので、花開く時はそう遠くはないと思うが時間軸が必要になる。

（４）名鉄津島駅の土地及びマンションの建設等について

意見

市も会社もビジョンがあり、市のビジョンと僕らの会社のビジョンが合ってくると、互いに伸びると思う。お互いが話し合いながら進めることで、互いに色々と手を打つこともできるので、ぜひ定期的にやっていってもらえると良いなと思った。

子どもが津島市で育って、優秀な子は外へ出て行くが、フィードバックで市に残る施策があれば良いのになと思う。例えばサテライトオフィスを作って、津島市の企業誘致を更に促進させる手を打っていくと、子どもたちが津島市で勤務してくれる人が増えていくと思う。

市内に泊まるところがなく、企業を呼んできても結局名古屋を案内することになる。その辺りもホテルが建つと津島でおもてなしができて、津島市で泊まってもらえるので、そこを何とかできたらといつも思う。

市職員

お互いのビジョンが同じ方向に行くことで、非常に強みになっていくと思う。強い生産性の高いものが生まれる。できるだけ生産的に取り組んで、共有できるように進めていきたい。

市長

今は移住定住も進んできて、東京でなければいけないということはなくなっているので、この辺りのゆったりとできるところで仕事ができるようになればと思うし、津島の資源としてはできると考えている。

以上。